

平成19年6月8日

生物多様性国家戦略関係省庁 御中

中央環境審議会生物多様性国家戦略小委員会  
委員長 熊谷 洋一

第1回小委員会（各省庁ヒアリング）では、お忙しいところ、各省庁の生物多様性に関する考え方や施策についてご説明いただき、有難うございました。

さて、ヒアリングの最後に申し上げたとおり、ヒアリングを踏まえた追加質問事項を下記のとおり提示いたしますので、6月20日までに事務局宛回答を提出いただきますようお願いいたします。なお、提出いただいた回答は、小委員会の場で報告するとともに、公表資料とさせていただきます。

.....

**追加質問事項**

環境省

- ・ 研究者等が地球温暖化の影響を示す情報を持っていると思うが、日本において生物群集や生物の生活史がどれくらい変化したのかという情報について資料を示してください。
- ・ サンゴ礁の保全が地球温暖化対策に寄与するのかどうか示してください。
- ・ 手入れ不足の森林の管理、極相の自然林の保全などが温暖化対策の観点からみた場合どのように評価されるか示してください。

農林水産省

- ・ 農業用水として取水した水を田畑に直接利用する以外にも、用排水路の工法のあり方によってその周辺の生物多様性を高めることができることに対して、経済評価することができれば、農業が環境を通じて有する経済効果を加えることができ、結果として農業の振興や環境改善につなげることができるのではないかと。農林水産省の見解を示してください。

文部科学省

- ・ 生物や自然に関する内容が、実際の教科書のなかで、どれくらい入っているのか具体的に示してください。
- ・ 身近な自然は地域ごとに異なるものであるが、それが実際の学校教育の中でどのように取り込まれているのか示して下さい。